

日本の民間信仰

澤山晋太郎

理論物理学者 博士(理学)

自己紹介

澤山晋太郎

1978年生まれ。

2001年慶応義塾大学工学部物理学科卒

2007年東京工業大学工学研究科基礎物理学専攻卒

博士(理学)、理論物理学者、哲学者

主な研究にブラックホールの消滅問題を解いたことがある

その問題は1975年にホーキングが提唱してから延々と世紀の大問題だったが、自分が2006年に解いている

最近は道徳と宗教の研究をしていました。

本「道徳と宗教と法」澤山晋太郎、eブックランド社

日本の宗教

- 神道
- 仏教
- 儒教
- 日本の宗教(民間信仰)

神道

簡単に言えば自然崇拝です。

富士市では富士山を祈ったりすることが神道です。

後は豊作を祈って伊勢神宮に行ったりします。

昔は自然現象は色々な日本の神が引き起こしていたと考えられていたので、そういう宗教がありました。

神道2

神道のような宗教をアニミズムと言います。

神道は古事記と日本書紀によってまとめられていますが、それ以前の太古の昔から存在していた宗教です。

昔の日本人は先祖が神なんだと言って氏神を信仰していました。また、それが自然崇拝と繋がっていたのです。それをまとめたのが記紀を編纂した天武天皇です。

今のような神道になったのは、明治以降です。国家神道として神道とは別物になっています。

それ以前はただの自然崇拝でしたが、天武天皇の記紀の編纂以前にも日本各地に色々な神話があったことが確認されています。日本の神話は大陸が起源であったり、東南アジアが起源だったりします。天孫降臨の話は大陸からで、神が人間になる話は東南アジア系です。主にニニギのところですよ。

仏教

仏教は簡単に言ってしまえば、仏陀になろうねという宗教です。仏陀とは精神的に落ち着いた人のことです。仏ともいいます。

有名な教えで四法印があります。

諸行無常

諸法無我

涅槃寂靜

一切皆苦

の四つです。これに色即是空を加えたものもあります。

仏教2

ただし、日本仏教は大乗仏教です。

四法印の悟り以外にも悟りの開き方はいくらでもあるよという教えです。後は誰もが仏陀になることができるという教えです。

それで色々な宗派があるわけです。

しかしながら、日本では江戸時代にお寺は葬式だけやっているという命令が出てから、日本の場合は葬式仏教になっています。

儒教

簡単に言えば、孔子の論語や、老荘思想のことです。老子は中国古来の思想が書かれていて、老子は実在の人物ではないです。道教に近い教えです。後は老子には仏教の考えもあります。実は儒教は朱子によって改ざんされてしまって、昔の儒教には宗教の側面もあったことが確認されています。鬼神信仰(後述)があったことが分かっています。後は孔子ですが、かれは時代とともに英雄視されてしまったところがあって、白川静さんの孔子伝にちゃんとした孔子像が書いてあります。

日本の宗教

今まで長いこと宗教社会学の研究をやっていましたが、日本は神道でも仏教でも儒教の国でもなかったです。

それで、無宗教の人が七割いるという調査があります。

ただし、先祖の霊を信じている人は94%でした。
(読売新聞の調査)

ここで、日本の民間信仰を民俗学から調べることにしたのです。

民間信仰

日本人の大半は先祖の霊を信じています。

ではこれはいつごろから始まったかと言うと、太古の昔からです。弥生時代にはすでにあっただと思われれます。

昔の日本人は先祖の霊を延々と崇めていたら、いつか神になるんだという思想を持っていました。それが氏神信仰に繋がり、神道の基盤を作りました。

民間信仰2

太古の昔は自然崇拝があって、山、河、石、樹などに神が宿ると思われていました。ちなみに、初期は一つの神が宿るという一神教に近かったのですが、後で多神教になります。

先祖の霊というものは恐れられる対象でした。しかし、災いをもたらすことと幸をもたらすという二面性を持っていたようです。この辺りの先祖崇拝は中国にあったものが伝わったようです。鬼神信仰と呼ばれます。つまり、死者の霊は二つに分かれて一つは神になって天に行き、一つは鬼になって地上に住むという考えでした。

民間信仰3

その鬼神信仰が日本では少し変わって、先祖の霊を延々と崇めていけばいつか神になるんだという信仰に変わりました。これが氏神信仰です。その氏神信仰は弥生時代からあったようで、天武天皇が困って記紀を編纂したくらいです。

日本でも聖徳太子の時代から仏教の影響を受けます。それまでは母権的な社会だったのですが、父権的になります。これは仏教や儒教の影響が大きいです。昔は女系天皇もいましたし、卑弥呼の時代は母権的でした。後は昔はシャーマニズムもあったようです。いたこも昔からいます。

民間信仰4

仏教の影響を受けて、氏神信仰も少し変わってきます。鎌倉時代には善い神（先祖の霊）は仏教系の神社で祭って、悪い神は神道系の神社で祭るといふ今では考えられない宗教があったらしいです。

民間信仰5

その先祖の霊を信じるということが仏教の影響を受けて変化して、先祖の霊を崇めていれば、生まれ変わって家に帰ってくるんだという思想に変化しました。

この影響が未だに日本では強くて、先祖の霊を信仰するようになっています。

別の説では先祖の霊は仏になるんだとも言われています。

このような葬式仏教は江戸時代の1635年頃にお寺は葬式だけやっているという命令のもとに始まったのです。葬式の方法としては日本独自です。

民間信仰6

現代の葬式というものは霊と言う概念に基づいて、魂の浄化をやっているのです。ちなみに、この魂と霊は同一視されます。くしゃみをする
と魂が抜けるなどと思われていました。くしゃみをした時は「くさめ」というと鬼に魂をとられずに済むという風に信じられていたそうです。現代風に言うと糞食らえみたいな言葉です。三回忌や七回忌や五十回忌と魂の浄化をやっているわけです。もちろん、もとの仏教とは全然違う考えです。

ムラ、ハレ、ケ、ケガレ

この四つの概念を理解すれば、日本の民間信仰が理解できるようになっています。

ムラ

日本には戦前までムラというものがありませんでした。13歳になるとムラの一員になって、農作業や土木業、消火活動などをやることになっていました。ただ、その見返りとして、夜這の権利など性のサービスもあったのです。昔は男尊女卑だったので、そうなっていました。国によってはそういう国が未だにあります。

もちろん、ムラの仕事に従事しない人は村八分にされます。後は流浪の人がムラの一員になるにはかなり苦労したらしいです。現代は性が乱れているとか言われますが、昔のほうがもっと酷かったです。とくに13歳になるとムラの一員とみなされて、大人の女性から筆おろしなどがあったのです。こういうのが戦前までありました。一部では未だに残っているらしいです。

ハレとケ

日常のことをケと言います。それに対して非日常のことをハレと言います。今でもハレの日などと言います。結婚式、葬式、成人式、七五三、入学式、卒業式などがハレの日ということ。逆に日常的な日はケの日と言います。

ケガレ

ケガレという概念は神道から来ているのですが、日本に太古の昔からあった概念です。例えば、死をケガレと見たり、出産をケガレと見たり、肉をさばくのをケガレとしていました。この概念が日本の民間信仰の手がかりになります。主に、汚いとか、怖いという気持ちから来ています。

死のケガレ

日本人は死というものを忌み嫌っていました。
それで、葬式なども忌み嫌われたのです。

例えば、ご飯にお箸を立てるなと言いますが、これは葬式のご飯にお箸を立てるからです。後はおかずの橋渡しはやめろと言いますが、これも葬式の時骨の橋渡しをやることからきています。つまり、そうしきというハレの日にやることをケの日にやるなということです。後は新しい靴を買ってそれを家の中で履いて外に出るなども言われます。これは葬式の時出棺から来ています。

敷居の概念

日本では敷居が高いなどと言いますが、その敷居を踏むなとか教えられたと思います。敷居は結界のようなものと考えられていました。鳥居も結界ですし、寺の敷居も結界です。神社の内部や寺の内部はこの世ではないもの（異界だったりあの世だったりします）と思われていました。また、家の中も何重にも結界を貼ってあるわけです。そうやって妖怪などの侵入を防いでいたわけです。つまり、敷居が高いとは結界が強いという意味なわけです。敷居を踏むなとは聞かされたと思うのですが、あれはこの世とあの世の境に立つから駄目という意味です。つまり、日本にはこの世とあの世が両方とも存在しているのです。ちなみに、あの世に入って迷ってしまうのを神隠しに言ったと言います。

ケガレと差別

現代に残る部落差別などはケガレという概念から来ています。元は戦国時代に革職人を朝鮮半島から呼んで、違う戦国大名に取られないように策を作って同じところに住まわせたのが未だに続いています。江戸時代になって、エタ、非人と呼ばれるようになるわけですが、肉をさばく人だったからです。昔の日本人は肉をさばくのをケガレと考えていて、そこから差別問題が始まったりしました。

動物の憑依

日本では動物が人間に憑依するんだって考えもありました。先祖の霊を信じているので、動物の霊も何かに宿ると考えられていました。人間の霊や動物の霊は物に宿る時もあります。その時におばけになるわけです。後は、特定の人間にとりついたときに幽霊になるわけです。おばけは無差別ですが、幽霊は特定の人を狙います。また、昔は精神病の人のことをキツネがとりついたんだと言って差別の対象になりました。こういう霊が物や人に宿るといふ信仰をシャーマニズムって言います。いたこなどが有名です。現代では恐山にいますが、あれは半分くらい商売らしいです。昔は日本の各地にいたこがいたようです。

特殊な動物キツネ

キツネは太古の昔から崇められていた。
なぜかというと、ネズミなどを食べるから、
それが神道に吸収され、仏教の影響を受けて、
人を化かす妖怪という説まで生まれた。
お稲荷さんと言って豊作の神ともされる。
ちなみに、キツネを崇めているのは日本くらいである。
お稲荷さんが好きだという説がある。
後は稲荷神社は鬼神信仰の証拠だったりする。
稲荷伏見神社は山になっているが、そこに古墳がある。
昔は鬼神信仰の神社だったが、後世になって五穀
豊穰の神になった。

特殊な動物ヘビ

これもネズミなどを食べてくれるので、神として太古の昔から崇められていた。これは世界的に崇められている。後は何も食べないで長期間生き延びれるからという理由もある。そもそも神(カミ)とは蛇(カ)身(ミ)から来ている。そもそも、神道ができる前から動物信仰はあって、それが神道に吸収されたところがある。

記紀が編纂される前の宗教

記紀が編纂されるより前にも日本各地に色々な神話があったことが確認されています。

富士市ではかぐや姫伝説が有名です。竹取物語は記紀が編纂される前の書物です。2000年以上前から富士山は信仰の山だったのです。紀元前50年くらい前に富士山を信仰していたという考古学の証拠があります。富士山の信仰がコノハナノサクヤビメの信仰になったのは記紀が編纂された後のようです。かぐや姫が月に帰って行くときに竹取の翁に不老不死の薬を渡すのですが、娘が行ってしまうくらいなら、薬はいらないと言って、富士山の噴火口に投げ入れて、それから不死の山、不死山になったという神話があります。

このようなローカルな神話は日本の各地に残っていますが、まだ誰もまとめていなかったりします。

縁起

縁起とは仏教用語で因果のことを言います。

ただ、日本では縁起が悪いなどと使われる言葉です。例えば、ケガレに触れたときに縁起が悪いなどと言います。つまり、あとあと因果関係で悪いことが起こると信じられているのです。

例えば、動物が死んでいるのを見たときに、縁起が悪いと言いますし、霊柩車が通った時も縁起が悪いと言います。こういうのは全てケガレという概念が仏教の縁起と結びついてできた概念です。

後は、カラスは縁起が悪いなどと言います。これはカラスがお墓の供物を食べに来るからです。黒猫は縁起がいいという場所もあります。民間信仰は日本各地によってかなり違います。

神道も民間信仰の影響を受けている

実は神道がまとまる前から、日本ではケガレだとか氏神信仰があったのです。氏神信仰は先祖は神だったという信仰ですが、それが旨い具合に神道に取り入れられています。後はケガレという信仰も神道に影響を及ぼして、お祓いなどでは人間への憑き物を払っているわけです。また、仏教でも人間への憑き物をとるような考えになってしまっています。

原始的な宗教

それには三つあります。

アニミズム、シャーマニズム、先祖霊信仰の三つです。アニミズムという自然崇拝は縄文時代からあります。先祖崇拝は弥生人が大陸から持ち込んだようです。シャーマニズムは卑弥呼の時代にやっていたらしいです。最近はいたこも商売になってしまって、恐山にしかいないですが、いたこは昔からいたらしいです。昔は日本中にいたということです。

日本にはこの三つが入り混じっていました。現代でも三つともあります。

自然を崇拝したり、霊の憑依を信じたり、先祖の霊を信じたりしているのです。世界のどこにでもある原始的な宗教だったりします。

妖怪などの起源

七五三などが未だに残っていますが、昔の日本では医療が発達していなくて、三歳になるまでに死ぬ子供などが非常に多かったということです。それで、七五三という風習が残っています。七五三という奇数なのは奇数は多数決ができて縁起がいいという中国から伝わったものです。ちなみに、昔は障害者がいた場合は七歳になった時に殺していたらしいです。それを神隠しとして扱っていたらしいです。七歳までは神の内と言って、七歳までの子供は神とされていたらしいです。後はそういう障害者が可愛くて殺せない場合は納戸などに隔離していたらしいです。それが座敷わらしということです。座敷わらしがいる家は縁起がいいとは言いますが、障害者を養える家というのは裕福な家だからということでした。

後は、赤ん坊でも間引いた場合は河原に捨てていたらしいです。それを子供には河童として説明していたらしいです。このように妖怪などにも起源がちゃんとあつたりします。

地蔵信仰

これは仏教の信仰の中でもかなり特殊なものなのですが、弥勒菩薩信仰というものがあります。今から56億7000万年後に宇宙が消滅する時で、その時に弥勒菩薩が人類を救うという信仰です。ただ、年数は誤訳で本当は5億6700万年後らしいです。それまで地上を守るのが地蔵ということです。

道祖神信仰

昔はムラが単位だったのですが、そのムラにも
結界というのがあったのです。そのためにム
ラの端のほうには結界として道祖神が置かれ
ていたらしいです。

日本の宗教

日本の宗教は、神道でも仏教でも儒教でもありません。太古の昔からある民間信仰を延々と未だに信じているわけです。もちろん、この宗教に名前はないです。先祖の霊を信じたり、何かの霊の憑依を信じているわけです。もちろん、神道にも仏教にも儒教にも霊を信じろなんて教えはないわけです。日本の宗教はかなり原始的な宗教だったりします。